

MI²I 第四回コンソーシアムイベント報告

国立研究開発法人 物質・材料研究機構
 情報統合型物質・材料研究拠点 拠点マネージャー
 石井真史

日時：12月9日（金）14:00-17:00（懇親会 17:00-18:30）

場所：リロの会議室「両国YAビル」（会議、懇親会とも）

参加団体数：24 団体（主催者を含む）新規参入は無し

参加人数：46 名（懇親会参加人数 24 名）

プログラム：

13:30	受付開始	
14:00	「MIにおける知財問題」 1. 特許と著作権の違い・・・10分 2. データベースの権利保護・・・5分 3. 数学解法・アルゴリズムの権利保護 ・バイズ推定を例題にして・・・10分 4. 質疑（事前質問を含む）・・・35分	高田正日出（NIMS）
15:10	休憩	
15:30	「クラウド型か個別型か？」 実習型イベントに関する意見交換	石井真史（NIMS）
16:00	「DPFに関する利己的希望」 運営側に（が）訴えたいことのとりまとめ	
16:30	幹事会報告・会員の意見交換 コンソーシアム HP 運用についての希望 合宿型イベントについて ベンチマークによる MI スキルの向上について	庄司哲也（幹事）
17:00	懇親会（同会場にて）	
19:00	閉会	

以下に概要をまとめる。

MIにおける知財問題（70分）：

MIに関係するデータベース、アルゴリズムは特許になるか？について、過去の出願例に照らした解釈が述べられた。MI関連の特許が少ない現状、日本ではデータベースを特許化することは容易ではないこと、記述子など数学的な位置づけに近いものは現行法上、特許の取得は難しく（範囲を絞れば取得可能）、基本は実現できた“モノ”に対する特許が主となっていること、が示された。

クラウド型か個別型か？実習型イベントに関する意見交換（30分）：

要望の多い実習型イベントで使用するソフトについて、ホストコンピュータに準備して参加者がアクセスするタイプと、各自のコンピュータにインストールするタイプについて、満足度や実施難易度を踏まえた希望調査がなされた。結論は、拠点が MI 用コンピュータを機種選定、各社がそれを購入し、そのコンピュータ上で動くソフトを使い実習、がベストとの判断に至った。一方でネットを利用したよりオープンな利用や共同作業に対する期待も寄せられた。

DPF に関する利己的希望 (30 分) :

DPF 公開前で、実情とユーザーの期待の間の溝を埋めるための率直な意見交換を行った。クラスタとクラウドの違いや、利用可能なデータベース、第一原理計算およびそれ以外のツールの整備状況について運営側から説明。会員からは、持って帰れるデータについての不透明感、831 号室へのアクセスの悪さ、オープンデータの取り込みへの要望が出された。

幹事会報告・会員の意見交換 (30 分) :

- ・コンソーシアム HP 運用についての希望

最近の政府関係機関の情報セキュリティの厳正化に伴って、コンソーシアムの HP の全面的な見直しを進めていることが説明された。

- ・合宿型イベントについて

年明けの全体会議について、コンソーシアム会員の立場（企業からの発表は無いこと、NDA の必要性）が説明された。これに対して、会員も発表の機会が欲しいという声があり、会議後の懇親会でもコンソーシアムと拠点の関係を明確にしてほしいとの意見が聞かれた。

- ・ベンチマークによる MI スキルの向上について

「テーマを決めた共同作業」、「拠点の出口課題に則したコンソーシアムなりの取り組み」など、目的ある取り組みに対する積極的な意見が寄せられた。



会場の様子

アンケートから（回収数 31）：

今回は当然企業の方が殆どであり、また目的意識もはっきりしているため、回答はかなり明快かつ具体的であった。

専門分野

会員の専門は主に「物理系無機化学」という言葉で集約される。勿論、それに該当しない会員への配慮が必要である。

応用産業

化学、電気機器が多く、鉄鋼のような重量感がある産業の方は来ていない。中重量級として「自動車」がある程度含まれる。多くは無いが、医療関係が見られる。

年齢層

チュートリアルと同様、平均は 40 代後半。

満足度

「とても満足」と「満足」を合わせて 61%であった。準備不足が響いて（本来実習をする予定だったが間に合わなかった）、低目と言える。次回以降の DPF 関係や手を動かす企画で挽回したい。

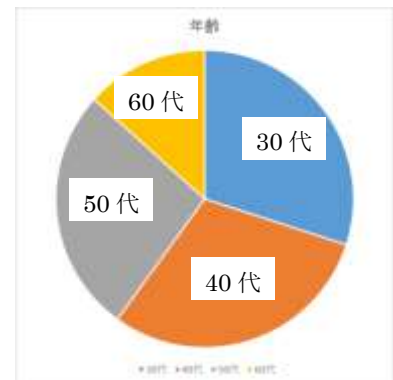
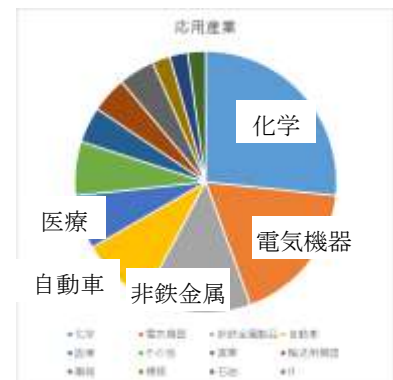
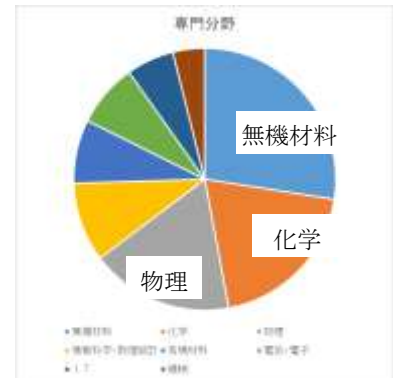
以下、自由回答のうち代表的な意見を抜き書きする。企画側も会員側も、共通の問題点（焦り）を感じているのが分かる。

イベントの感想

- ・ DPF の早期立上に期待
- ・ 意見交換が活発で良かった
- ・ 遠隔で、DPF を利用できる環境はぜひ整えてほしい
- ・ 特許の話は参考になったが、海外での出願状況なども知りたい
- ・ MI 特許出願について” 計算で求めた材料の実験結果が必要” と理解できて良かった
- ・ DPF の全体像がイメージできない。第一原理計算ありきの様な気がする

行ってほしいイベント

- ・ 実習やノウハウの勉強会
- ・ DPF が提供するツールの使い方講座
- ・ 自習型グループの結成（データや結果はグループ内で完全公開。業務とは別の課題を想定）
- ・ 最新事例の紹介
- ・ 習熟度別の勉強会
- ・ 連携（先生の紹介等）のサポート
- ・ 個別の相談会



その他の意見

- ・ NIMS 外部からのリモートアクセスによる DPF 試用の早期実現
- ・ 会員同士の技術的な交流会（分科会）や共通課題の設定
- ・ 資料やツールの全面公開
- ・ 第一原理計算より、機械学習の話を

イベントの頻度

得られた回答の平均は、0.76 回/月で、ほぼ現状レベル維持で良いと言える。